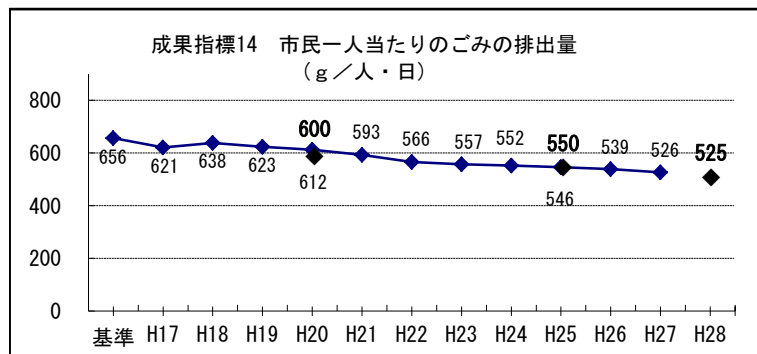


柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	I リデュース・リユース
ビジョン	買う人・売る人・作る人 いつも心に“もったいない”



主な事業

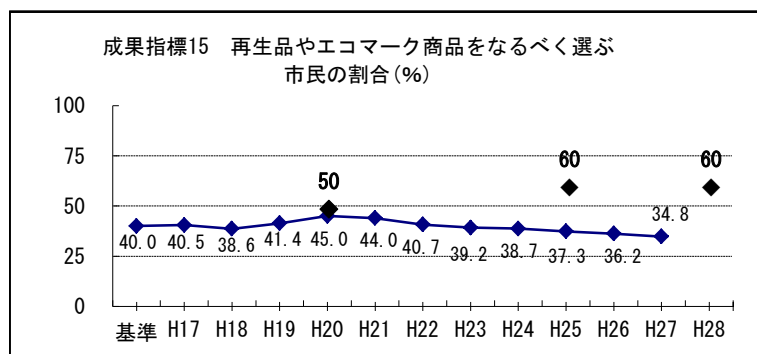
ごみ指定袋制、レジ袋の有料化
集積場所での資源回収
EM処理剤の無料配布
広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

- ☐ 目標達成
☒ 順調
☐ 順調でない

成果指標の分析

「市民一人当たりのごみ排出量」は19年度から徐々に減少し、27年度は、26年度より13g減の526gとなり、順調に推移している。
プラスチック製容器包装及び小型家電等の資源化が進んでおり、順調に後期目標値に近づいている。



主な事業

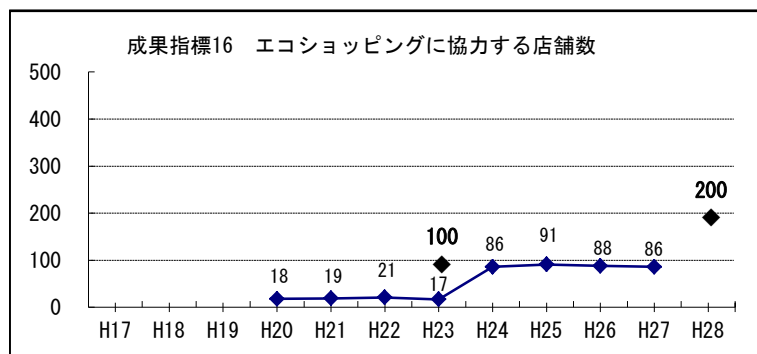
リサイクルフェア
資源集団回収
分別収集事業
広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

- ☐ 目標達成
☐ 順調
☒ 順調でない

成果指標の分析

「再生品やエコマーク商品になるべく選ぶ人の割合」は、20年度をピークに徐々に下がり続け、23年度から基準値を下回っており、順調とはいえない。循環型社会の形成のため、市民が再生品やエコマーク商品を選ぶように促すための啓発が必要である。



主な事業

レジ袋有料化
広報等による啓発

計画通りに成果が上がっているか

- ☐ 目標達成
☐ 順調
☒ 順調でない

成果指標の分析

「エコショッピングに協力する店舗数」は後期計画から定義付けを改め、数値の把握に努めたため、24年度には大幅に増加した。しかし、店舗の新設や閉店を確実に把握することが困難であることが課題である。また、27年度も、レジ袋有料化協力店舗であったスーパーマーケットが2店舗脱退したことから、店舗の協力を維持することは今後も困難といえる。

成果が向上する余地（可能性）は？

☐ 大 ☐ 中 ☒ 小

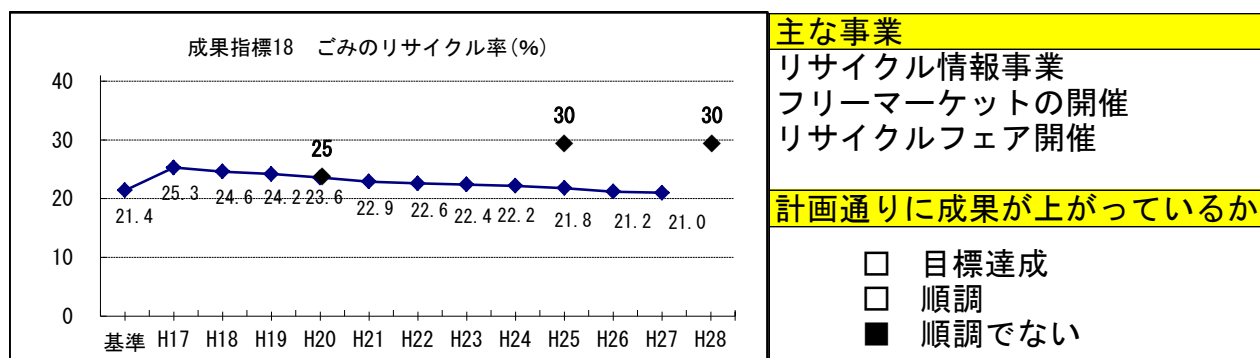
成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

- ①ごみ減量やリサイクルに関心の薄い30歳代以下の年代にも関心を持っていただけるよう、スマートフォン用生活情報アプリ「東海なび」の活用により、啓発を強化する。
- ②28年度に策定する「ごみ処理基本計画」に、「消費期限を意識して買い物をする」や「食べ残しをしない」等、市民が取り組みやすい方を位置付ける。
- ③清掃センターでの小学生の社会見学、リサイクルフェア及び各種講座の際に、3R及びエコマークについて、積極的に情報提供していく。

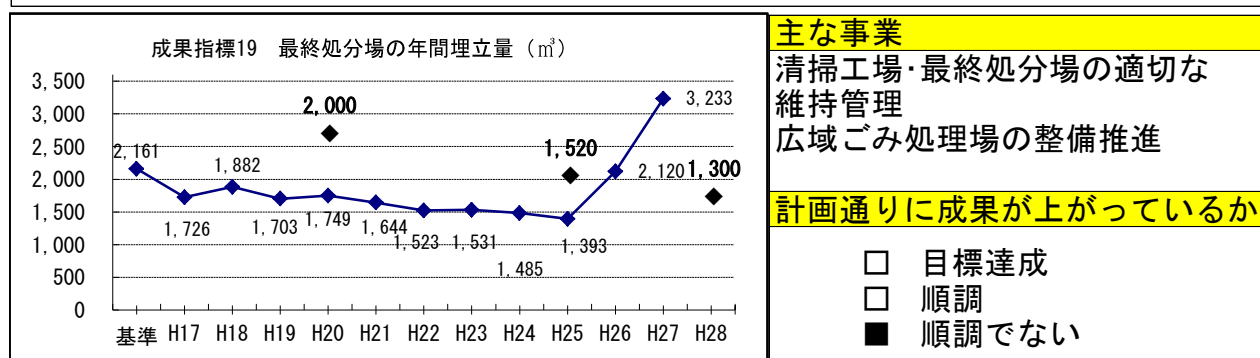
柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	J リサイクル・適正処理
ビジョン	子どもの未来を考えて、自然にやさしい処理・処分

成果指標17-1 市民一人当たりのごみの資源化量 (g/人・日) <table><thead><tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>179</td><td></td></tr><tr><td>H17</td><td>190</td><td></td></tr><tr><td>H18</td><td>185</td><td></td></tr><tr><td>H19</td><td>175</td><td></td></tr><tr><td>H20</td><td>165</td><td>190</td></tr><tr><td>H21</td><td>152</td><td></td></tr><tr><td>H22</td><td>140</td><td></td></tr><tr><td>H23</td><td>136</td><td></td></tr><tr><td>H24</td><td>131</td><td></td></tr><tr><td>H25</td><td>125</td><td>200</td></tr></tbody></table>	年度	実績	目標	基準	179		H17	190		H18	185		H19	175		H20	165	190	H21	152		H22	140		H23	136		H24	131		H25	125	200	主な事業 リサイクル情報事業 フリーマーケットの開催 リサイクルフェア開催
年度	実績	目標																																
基準	179																																	
H17	190																																	
H18	185																																	
H19	175																																	
H20	165	190																																
H21	152																																	
H22	140																																	
H23	136																																	
H24	131																																	
H25	125	200																																
成果指標17-2 民間を含む市民一人当たりのごみの資源化量 (g/人・日) <table><thead><tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準値</td><td>196</td><td></td></tr><tr><td>H24</td><td>203</td><td></td></tr><tr><td>H25</td><td>197</td><td></td></tr><tr><td>H26</td><td>194</td><td></td></tr><tr><td>H27</td><td>190</td><td></td></tr><tr><td>H28</td><td></td><td>220</td></tr></tbody></table>	年度	実績	目標	基準値	196		H24	203		H25	197		H26	194		H27	190		H28		220	計画通りに成果が上がっているか ☐ 目標達成 ☐ 順調 ☒ 順調でない												
年度	実績	目標																																
基準値	196																																	
H24	203																																	
H25	197																																	
H26	194																																	
H27	190																																	
H28		220																																
成果指標の分析 「民間を含む市民一人当たりのごみの資源化量」は、25年度から徐々に減となっている。これは容器包装自体の軽量化や新聞の購読数の減少等によるものと考えられる。品目ごとに見ると、プラスチック製容器包装や小型家電の回収量は増加傾向にあり、紙類・缶類は減少傾向である。特に紙類・包装紙等の雑紙に資源化の余地があると考えられる。																																		
※ 平成26年度より成果指標17-2へ統合																																		

柱	3 廃棄物・リサイクル
分野	J リサイクル・適正処理
ビジョン	子どもの未来を考えて、自然にやさしい処理・処分



成果指標の分析
ごみ搬入量・資源回収量ともに減となっており、リサイクル率も減となっている。資源量の減は容器包装自体の軽量化や新聞講読数の減少等によるものと考えられる。紙箱・包装紙等の雑紙に資源化の余地がある。



成果指標の分析
25年度までは、緩やかに減少した埋立量が、26年度は、灰溶融炉の故障等で焼却灰の処分が必要になり、27年度は、灰溶融炉の整備費を抑えるため1炉運転体制としたため、焼却灰の埋立量が増加した。

成果が向上する余地(可能性)は？ ☐ 大 ☐ 中 ☒ 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

- ①ごみ減量やリサイクルに関心の薄い30歳代以下の年代にも関心を持っていただけるよう、スマートフォン用生活情報アプリ「東海なび」の活用により、啓発を強化する。
- ②清掃センターでの小学生の社会見学、リサイクルフェア及び各種講座の際に、3Rや適正排出について、積極的に情報提供していく。
- ③焼却飛灰の資源化を検討するとともに、焼却灰の場外処分先の受入能力を把握し、埋立と資源化の適正な割合を見極める。